

第1回 釧路市子ども読書活動推進計画策定委員会 議事要旨

■開催日時及び場所

令和4年8月4日（木） 10時00分～11時00分
釧路市中央図書館 7階 多目的ホール

■主な議事

- (1) 釧路市子ども読書活動推進計画の策定について
- (2) 策定体制及びスケジュールについて
- (3) 釧路市における子どもの読書活動の現状について

■結果

議事(1)及び(2)について、委員の承認を得られた。

■発言要旨

議事(1)について
質疑等なし

議事(2)について
質疑等なし

議事(3)について

委員：漫画や電子書籍も読書に含まれるといわれているが、策定委員会の中では、図書を読むということを読書と捉えていくのか。

事務局：読むという事であれば漫画や電子書籍も読書に含まれてくると想定しているが、読書をどう捉えるかという部分は策定委員会でのご意見を参考にしたいと考えている。

委員：校種が上がるにつれ、学校の図書室がどこにあるか分からないという側面は十分に考えられる。小学校では子どもたちの集まる場所に本を設置して手に取ってもらうことも多いだろうが、中学、高校では人通りの多いところに図書室が設置されていないというのが実情。

委員：コロナ禍においては、休み時間や放課後に不特定多数の子どもたちが集まることを避けるため、図書室を閉館していたという期間もあったことが、アンケート結果にも反映されているのではないかと。

委員：今は多くの子どもたちが情報機器を持っていて、読書以外にも面白いものがあるという点が平成27年度、平成30年度とは違う点では。

委員：例えばSNSなど、以前に比べると本以外から情報を摂取する力を子どもたちが持っているのではないだろうか。

委員：幼稚園ではこれまで、先生が子どもたちに向けて本を読み聞かせるだけだったが、今は一つの本をみんなで共有して読み、家に帰ったら家族ともう一度読むよう促す取組を行っている。

委員：ボランティアとして活動している学校での活動について、当初は学校の図書室に図書館から借りた本を設置するという案もあったが、最終的に各教室に図書館から借りた本を学級文庫として設置することとした。結果としては休み時間等に子どもたちがすぐに本を手にとれる環境を作ることができ、少しずつではあるが子どもたちの読解力も向上してきていると感じている。

委員：勤めている学校では、子どもたちが手に取りやすいよう、廊下に書棚を設けたり、子どもたちが集まるホールにPTAの方々が選んだ本を設置したりしている。ちょうど図書室に繋がる通路にも書棚があることで子どもたちを図書室へ誘導することにも繋がっており、学校のいたるところに本があるという環境が整っている。

委員：小学校ではボランティアが図書室の飾りつけ等をしているが、中学校になると突然図書室が無機質なものになってしまう。そういった部分が図書室の場所が分からない、図書室になかなか行きたがらないという事に繋がっているのではないかと思う。

委員：大学生でいうと、講義で教員が本を紹介することもあるが、興味を持った時に自発的に動くということもあるし、スマートフォン等から得た情報を友人同士で共有し、必要な本にたどり着くという事もある。実習や講義のために附属図書館で本を借りる学生が多い。

委員：なかなか地域と子どもの読書活動という部分は結び付いていかないと思うが、家庭教育という部分も含まれるため、関係機関等と連携し、間接的にでも推進に寄与できたらと思う。

委員：町内会の中でも5年程前に私設図書館ができ、地域の子どもたちに無料で本を貸し出しているところがある。地域と学校がどう結びついていけるかを考えることが重要と思っている。